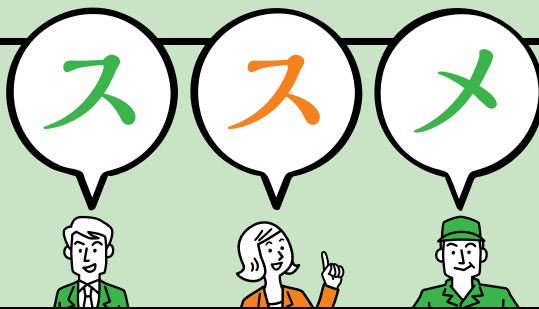


# がん対策の

## ニュースレター



日本は、2人に1人が“がん”になり、3人に1人が“がん”で亡くなる世界トップクラスのがん大国です。がんの6割が治る今、がんを抱えながら働く人も増えています。これから一緒に、がんについて学んでいきましょう！ぜひ、あなたの大事なご家族や、職場のみなさんと読んでみてください。



### Dr.中川のがん通信

#### ～がんはどういう病気か？～

## 悪性新生物という言葉を手がかりに

こんにちは。がん対策推進企業アクション議長の中川恵一です。

悪性新生物という言葉をお聞きになったことはあるでしょうか？お聞きになられた方は、おそらく保険商品の説明の際に耳にされたのだらうと思います。

悪性新生物というのは、医学用語です。しかし病院の日常会話でこの言葉を使うことはほぼありません。病院ではシンプルに、がん、と呼んでいます。悪性新生物は要するにがんの別名です。別名というのは混乱の元でもあります。それぞれが多面的な物事の一面を伝えているとも言えます。悪性新生物という別名は、がんのどのような性格を伝えているのでしょうか。

まず悪性、悪いという言葉の意味ですが、これは人間が生きていく上で都合が悪いという程の意味です。具体的には、それがあると症状が出たり、命にも関わる、そういう意味です。

良性新生物という言葉もあります。良性と名がつくとなか良いもののようにも思えますが、違います。良性とはいえ病気であり、ないに越したことはありません。悪性よりはまし、という程度の意味です。コレステロールや腸内細菌には善玉、悪玉という分類がありますが、この善玉はあった方がいいものです。良性と善玉は意味が違うということになります。

では、悪性と良性の違いはなんでしょうか。簡単に言えば、出来た場所に留まるなら良性、他の場所まで広がるなら悪性です。

新生物とはなんでしょうか。新生物はneoplasmという言葉の訳語です。neoplasmというのは、新しく生じた物、要するに“できもの”のことです。新しい生物というわけではありません（もっともその違いは微妙なところもありますが）。

あわせますと、悪性新生物とは、たちの悪いできもの、

放っておくと別の場所まで広がっていくできもの、という意味になることがおわかり頂けるかと思います。別名をおしてがんという病気について理解を深めて頂ければと思います。

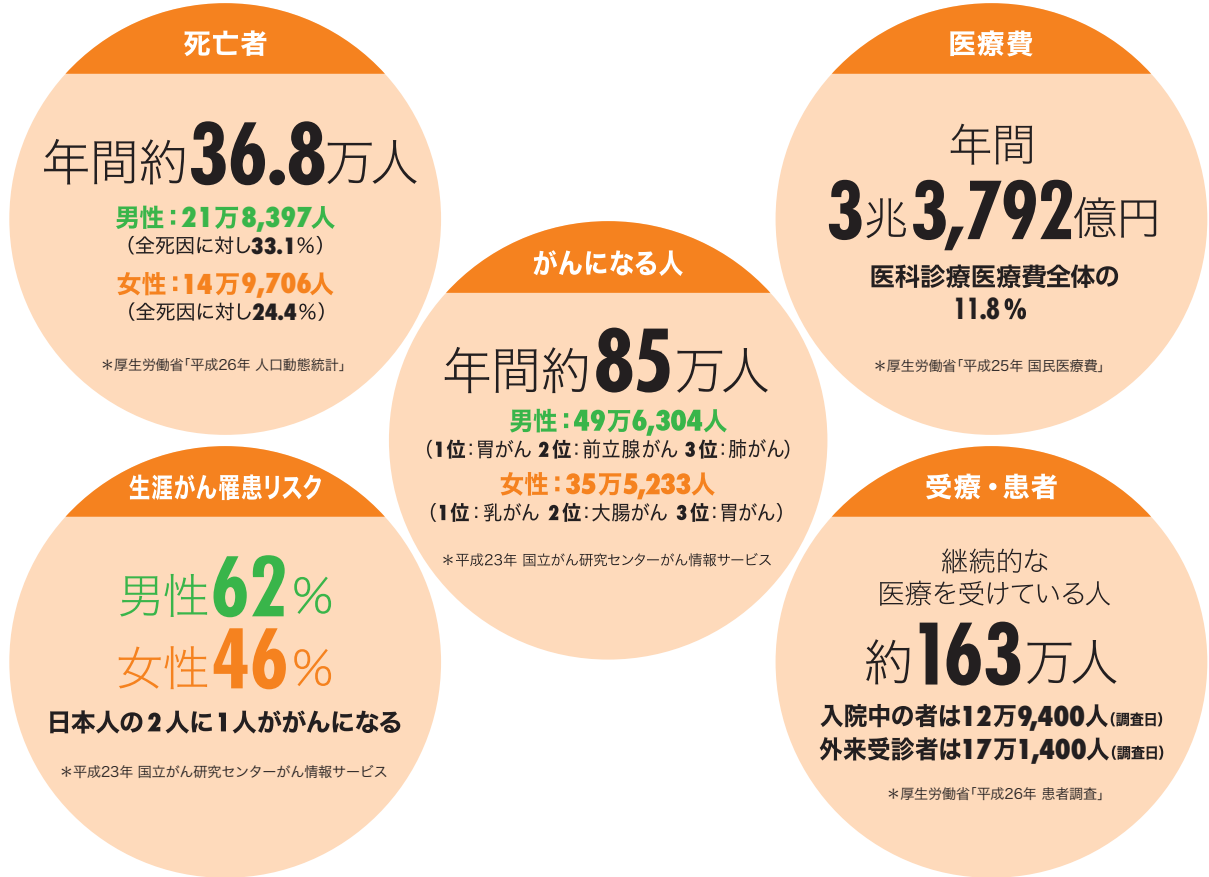


中川 恵一（なかがわ けいいち）

東京大学医学部附属病院放射線科准教授。厚生労働省の「がん対策推進協議会」委員、「がん対策推進企業アクション」アドバイザリーボード議長。「がんのひみつ」（朝日出版社）などのがんに関する著作多数、現在毎週日曜日、日経新聞朝刊で「がん社会を診る」連載中。

## がん大国日本にブレーキをかけたい。

日本は、人口比における“がん”の死亡割合が世界でも高く、その実態は世界一の“がん大国日本”といっても過言ではありません。企業にとっても、“がん”による人材の損失リスクは無視できない深刻な問題です。

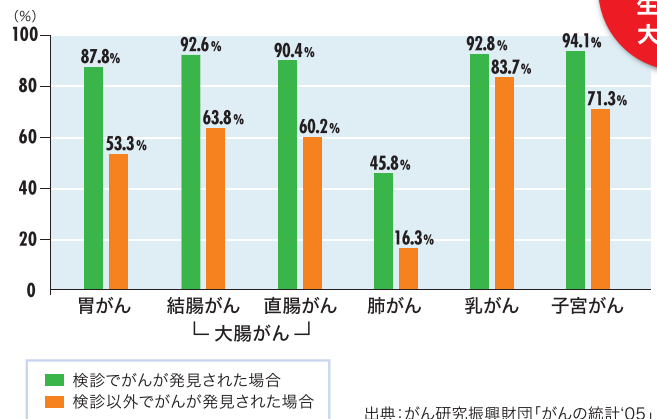


検診によりがんが発見された場合は、検診以外でがんが発見された場合に比べて、5年相対生存率が高くなっています。検診により早くがんが見つければ、生存率に差が出ます。

### ■5年相対生存率

がんと診断された場合に、治療でどのくらい生命を救えるかを示す指標。がんと診断された人のうち5年後に生存している人の割合が、日本人全体で5年後に生存している人の割合に比べてどのくらい低いかで表します。100%に近いほど治療で生命を救えるがん、0%に近いほど治療で生命を救い難いがんであることを意味します。

●がんの5年相対生存率 (1993年～1996年診断患者)



早期に発見されれば、生存率に大きな差

このニュースレターは、がん対策推進企業アクションのパートナー企業の皆様に毎月1回お届けいたします。がん検診啓発ツールとしてお役立てください。